

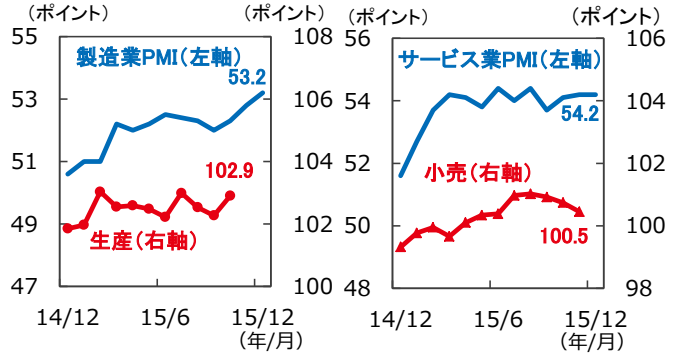
今日のトピック 最近の指標から見る欧州経済（2016年1月）

追加金融緩和や財政拡大で、緩やかな景気回復持続へ

ポイント1 緩やかな景気回復が持続
サービス業が景気を支える

- ユーロ圏の10月の生産は前月から増加しました。雇用や所得が底堅く、生産は上向きです。12月のMarkitユーロ圏製造業PMI（購買担当者景況感指数）は上昇傾向にあり、足元で生産活動の回復傾向が強まっています。
- 11月の小売は、パリ同時多発テロによるフランスの低下などが影響し、前月から低下しましたが、全体としては比較的高い水準です。12月のMarkitユーロ圏サービス業PMIは前月から横ばいで総じて底堅く、サービス業が景気回復を支えています。

Markitユーロ圏製造業・サービス業PMI、生産、小売

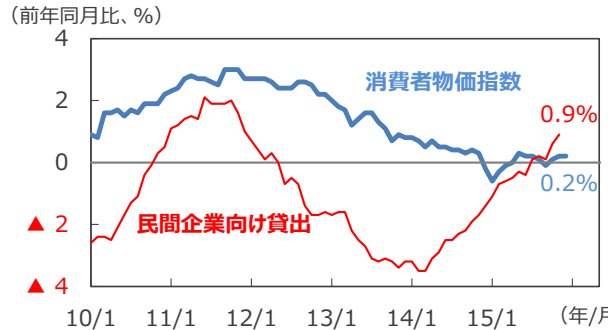


(注) データは2014年12月～2015年12月（生産は2015年10月、小売は2015年11月まで）。生産は鉱工業生産指数、小売は小売売上高指数。数字は直近の値。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

ポイント2 物価は目標を大きく下回る
民間企業向け貸出は増加

- 消費者物価指数上昇率は前年比小幅なプラスで推移しており、欧州中央銀行（ECB）の目標である2%を大きく下回っています。
- 企業向け貸出は増加傾向です。量的金融緩和は、企業活動を後押ししています。

消費者物価指数と民間企業向け貸出



(注) データは2010年1月～2015年12月（民間企業向け貸出は2015年11月まで）。数字は直近の値。
(出所) ECB、欧州統計局のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

今後の展開 **追加金融緩和や財政拡大で、緩やかな景気回復の持続へ**

- ユーロ圏は、雇用や所得の回復によりサービス業が引き続き景気を支えると予想されます。一方、テロや難民の急増による社会不安、地政学リスク、英国の欧州連合（EU）離脱を問う国民投票実施などへの思惑が、景気に悪影響を及ぼすことが懸念されます。原油安の急激な進展も製造業の回復を遅らせる可能性があります。
- 景気回復が緩やかで物価上昇率がECBの目標を下回る見込みから、追加金融緩和が予想されます。また、財政赤字の縮小が進んだことから、ドイツなどを中心に財政支出の拡大余地が増えています。難民問題は、収容施設の建設などで景気にプラスとなる面もあります。追加金融緩和や財政拡大で、緩やかな景気回復の持続が期待されます。

ここもチェック! 2015年12月16日 2016年のユーロ圏経済の見通し
2015年12月 4日 ECBの追加緩和と市場動向

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。